

鹿大の KAGOSHIMA UNIVERSITY チカラ

教育学部

云井未歓准教授(36)



重度の障害がある子には、思
うように体や表情で気持ちを伝
えられない子もいる。周囲の働き
かけが、その子にどう届いて
いるのか。雲井未歓准教授は障
害児心理学では、心拍数の変化
を手がかりに子どもの心の動き
を探る。

その子の名を呼び、5秒後に
鈴を鳴らす。これを繰り返すと
「名前を呼ばれると、その後に
何かが起きる」という期待から
心拍が遅くなる。「その子が心
を集中させ続けてくることが分
かる」

呼ばれたのが自分の名前だと
認識できない段階の子でも、こ

うした学習を重ねることで次第
にそれが分かってくる。そういう
た「コミュニケーション能力を高
める指導の効果を心拍数という
科学的なデータで裏付けてい
く。医療機関で一般的に使われ
ている小型の機器を使い、簡単
に心拍をとらえ分析できる仕組
みを開発してきた。

学生時代に授業で見学したあ
る病院の光景が障害者にかかる
研究に進んだきっかけ。極め
て重い障害のある人たちが暮ら
していた。体の自由がきかず、表
情も乏しい。音を立て続ける疾
病の吸引機。「正直、ショックで目
を背けたくなった」。だが、逃
げ出したくなつたはずの光景
が、その後も心をとらえ続け
た。「職員のケアがなければ、明
日死ぬかも知れない命がある。

コンピューターの画面を見な
がら指で宙に文字を書くこと
も=雲井未歓准教授提供

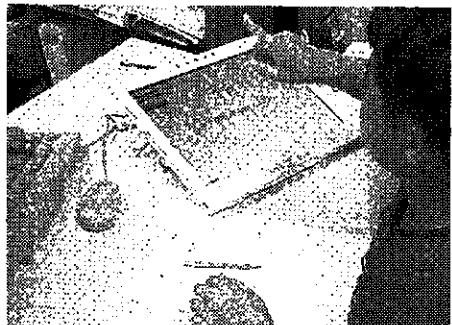
悩んでいる。ある小学5年生の
男の子からこんな不安を打ち明
けられた。

「（うまく書けないので）ほ
うが書いた字だつて、みんなに
すぐ分かっちゃう。幼稚園の子
みたいな字。大人になつたら上
手になるか心配で。そのままだ
ったら、おかしくと思われちゃ
うかな」

4年生の時處で、2年生の漢
字がほとんど覚得できていなか
った。雲井准教授は、こうした子
のための教材を作っている。内容
はテレビで人気の「脳トレ」ク
イズのようだ。子どもによって
段階はさまざま。「わたあめ」
を「わ□あ□」と伏せ字にし、
「わ□あ□」と読み書きが苦手な学習障害
の人間になりたいと思った」
もう一つ力を入れているの
が、読み書きが苦手な学習障害
の児の学習支援。「運動
も問題ないし知能も平均的。読
む」とだけが難しい子どもたち
がいるんです」と雲井准教授。
「100㍍走をするとき一番から
100番までいるようなもの。
個人差なんです」というが、そ
の子たちは傷つき、教室の隅で

いた子も「字が上手に書ける
ようになった。埋もれてた才能
が目覚めそうな感じがします」
と力強く答えるようになつたと
いう。そんな成長に目を細めた
がら、「いかにその子が安心でき
る関係を作るかが教材よりもよ
っぽ大事」と言い切る。

学習の充実感 平等に



自らも、こうした人の役に立てる
人間になりたいと思った」
もう一つ力を入れているの
が、読み書きが苦手な学習障害
(LD)児の学習支援。「運動
も問題ないし知能も平均的。読
む」とだけが難しい子どもたち
がいるんです」と雲井准教授。
「100㍍走をするとき一番から
100番までいるようなもの。
個人差なんです」というが、そ
の子たちは傷つき、教室の隅で

いた子も「字が上手に書ける
ようになった。埋もれてた才能
が目覚めそうな感じがします」
と力強く答えるようになつたと
いう。そんな成長に目を細めた
がら、「いかにその子が安心でき
る関係を作るかが教材よりもよ
っぽ大事」と言い切る。

LDの子の多くは、ほかの子
と同じクラスで学ぶ。一人の子
を特別扱いしない一方で、ほ
のかの子たちが30分で済ませる書
き取りの宿題に、親が付きつき
たりで4時間かかる子がいるのも
現実。

「教育の平等は、『機会』の
面では十分保障されるようにな
った」と雲井准教授。「いま視
点を移すべきなのは、それを受
けた子にとって平等が確保され
ているか。わかった! ああ面
白い! という経験を、みんなが
平等にできているかということ
だと思つのです」

(教育学部編は春柳聰
が担当しました)